

宗像市長 あて

(申請者)

団体名 九州産業大学地域共創学部行平ゼミナール

代表者氏名

住所

電話番号

令和8年度宗像市元気な島づくり事業補助金交付申請書

令和8年度宗像市元気な島づくり事業補助金において、宗像市元気な島づくり事業を実施したいので、宗像市補助金等交付規則（平成15年宗像市規則第31号）及び宗像市元気な島づくり事業補助金交付要綱（平成17年宗像市告示第34号）に基づき、下記のとおり申請します。

記

1. 目的及び内容

継続事業5年目	
事業名 (20字以内で 記入してください)	大島・地島！魅力発信プロジェクト
事業の目的 (300字以内で 記入してください)	大島および地島と本土を結ぶ交通手段は離島航路に限られている。近年、人口減少の進行により離島航路の経営環境は厳しさを増している。島の人口減少が進む中で、航路利用者を確保するためには、観光客をはじめとする交流人口の増加が不可欠である。対策を講じなければ、便数の減少等により島民生活に大きな影響が生じるおそれがある。 このため、大島および地島の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与する取組を行う。特に、若年層の観光客を増やすためには、若者目線による情報発信が重要である。そこで本事業では、大学生が主体となり、大島・地島の魅力発信を行うことで、両島における交流人口の増加を図る。
事業の内容 (300字以内で 記入してください)	令和4年度は大島・地島の魅力として「船旅」に着目し、乗船体験に焦点を当てたパンフレットを作成した。令和5年度は特産品の販売促進を目的として大島をイメージした紙袋を作成し、令和6年度は島内周遊を促すウォーキングマップを作成した。令和7年度はオンデマンド交通「のるーと」の運行開始に合わせたマップを作成した。 令和8年度は最終年度として、引き続き、大島・地島の魅力について、フィールド調査を基に大学生が主体的に探究するとともに、若者目線で交流人口の増加に資する方策を検討し、紙媒体およびその他の媒体を用いた情報発信を行う。特に、島全体のイメージ向上につながる情報発信を行う。

2. 補助金の額及び算出の基礎

申請額	211,000	円
算出の基礎	別紙予算書の（様式2号）のとおり	



様式 2

令和 8 年度 宗像市元気な島づくり事業補助金収支予算書

【収入】

経費の内訳	予算額	摘要 (内容・積算根拠)
市補助金	(A) 211,000 円	元気な島づくり事業補助金
自己資金	153,119 円	
	円	
	円	
合計	(B) 364,119 円	

【支出】

経費の内訳	予算額	左記のうち 補助対象経費	摘要 (内容・積算根拠)
報償費	円	円	
旅費	75,680 円	75,680 円	JR九州 (九産大前⇄東郷駅⇄神湊: 往復 1,720円 ((450円+410円) × 2) × 4回 × 11名
需用費	109,359 円	109,359 円	ラクスル折りパンフレット 6,500部印刷 (費用は昨年度実績)
役務費	円	円	
委託料	119,900 円	119,900 円	冊子もしくはパンフレット作成 (デザイン)) 委託 (見積書添付)
使用料及び 賃借料	円	円	
原材料費	円	円	
小計	304,939 円	(C) 304,939 円	

宗像市渡船に係る 旅費	59,180 円	(D) 59,180 円	神湊～地島 (白浜): 往復820円×1回×11 人、神湊～大島: 往復1,140円×4回×11人 (移動にかかる旅費は4回としているが、4 回を超える分は自己負担の予定)
宗像市渡船に係る 役務費	円	円	

元気な島づくり事業補助金(A)	【(C)×補助率 0.5 + (D)+(E)】 計算後、千円未満は切り捨て (最高50万円)
	211,000 円

※経費の内訳は、(1)報償費 (講師料) (2)旅費 (3)需用費 (消耗品費、印刷製本費、光熱水費) (4)役務費 (通信運搬費、手数料、保険料) (5)委託料 (6)使用料及び賃借料 (7)原材料費
 ※補助率は、1年目～3年目…4分の3、4年目・5年目…2分の1
 ※「宗像市渡船に係る旅費及び役務費」は交付期間中、全額補助します。限度額は、全額補助経費と一部補助経費の合計で50万円です。

様式 4

令和7年度年度宗像市元気な島づくり事業実績の概要について

<注意> この様式は、令和7年度に補助金を受けた団体のみ提出が必要です。

<p>団体名</p>	<p>九州産業大学地域共創学部行平ゼミナール</p>
<p>事業名</p>	<p>大島・地島！魅力発信プロジェクト</p>
<p>実施した事業の内容</p>	<p>*実施した経過を含めて記入してください。</p> <p>令和7年度は、7月から12月にかけて大島におけるフィールド調査を実施した。また、本事業におけるこれまでの調査は学生視点での現地調査が中心であったことから、実際の観光客の行動や情報収集手段を把握することを目的として、宗像市元気な島づくり課に申請のうえ、令和7年11月1日に大島港ターミナル内において観光動態アンケート調査を実施した。当日は15グループを対象に調査を行い、その結果、大島周遊時に利用した情報媒体は、スマートフォンが9件、紙媒体のパンフレットが7件（複数回答）であった。</p> <p>これらの結果を踏まえ、オンデマンド交通「のるーと」の利用促進を目的として、紙媒体による観光マップ兼パンフレットを作製した。現在、宗像市によるデジタルマップは存在するものの、島内には通信環境が不安定な場所もあることから、現地での利用においては紙媒体による情報提供も有効であると考えられる。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>*課題等を含めて記入してください。</p> <p>【事業の成果】 前述のとおり、「のるーと&徒歩でまわる宗像大島散策マップ」を大学生の発案により作成し、6,500部を発行した。作成した成果物は宗像市元気な島づくり課へ引き渡しを行い、今後、神湊フェリーターミナルにおいて活用される予定である。</p> <p>【今後の課題】 宗像市元気な島づくり課への報告会において、担当者から、インターネットを活用した観光マップ等、紙媒体以外への展開に関する要望が示された。今後は、紙媒体に加え、デジタル媒体での情報発信についても検討していく必要がある。</p>
<p>令和7年度の事業実施を踏まえ、特に令和8年度に取り組むこと</p>	<p>令和7年度は、観光振興、特に観光客の満足度向上に資する取組として、「のるーと&徒歩でまわる宗像大島散策マップ」を作成した。</p> <p>令和8年度は、【今後の課題】のとおり、紙媒体を基本としつつ、宗像市元気な島づくり課と協議のうえ、紙媒体以外への展開についても検討する。また、大島・地島の観光地や特産品といった個別の情報にとどまらず、島全体のイメージ向上につながる情報発信を行い、観光振興および産業振興に寄与する取組を推進する。</p> <p>本事業は大学生が主体となる活動であることから、引き続き若者目線を活かした取組を行う。</p>

